

慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resources

Title	序
Sub Title	
Author	堀江, 湛(Horie, Fukashi)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1991
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.64, No.1 (1991. 1) ,p.5- 7
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	利光三津夫教授退職記念号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19910128-0005

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

序

利光三津夫先生は、静岡県下で大学をはじめ幾多の学園を経営する、常葉学園のたつての招聘に応え、同県富士市の協力を得て新設された常葉学園富士短期大学学長に就任されるため、選定年で塾を御退職になった。先生は本塾法学部を代表する学究であられたが、私にとっては同じ日本政治研究部門の同門の兄弟子であり、御退職はいかにも寂しく、先生とともに慶應義塾で過ごした日々を思いおこすと真に感無量である。

私が慶應義塾大学に入学した春、法学部の新入生歓迎会が散会したとき、階段をおりられる、おみ足が悪くて杖で巨軀を支え、温顔に笑みをたたえた一人の先生に強い印象を受けた。ところが、その後どうしたものかキャンパスで先生のお姿をお見かけするということがとんとない。どうしたことかと思っていたところ、大学に残ったある日、指導教授から、今度、利光先生が法学部に帰任されるとのお話でお会いしてみたら、あの入学の時の先生であった。以来、先生とのお付き合いは数えてみればかれこれ三十年近くたつ。

先生は第一級の法制史学者として、幾多の優れた法制史、政治史の分野における業績を世に問うてこられた。とりわけ、御専門の律令研究においては、他の追隨を許さない輝かしい研究業績を次々と発表され、法制史学会の重鎮と

して、学会をリードしてこられた。先生の真骨頂は、その守備範囲の広さにあり、古代より近代にわたる幅広い研究論文をものされている。たゆまぬ研鑽と深い学識のなせる業である。

近年もその筆は止まることなく、明法道や律令諸制の研究、さらには日本における議事決定方式の史的研究など、興味深い研究を『続 律令制の研究』として集大成された。先生は、これら日本法制史、日本政治史の一連の業績により、昨年度、慶應義塾がわが国を代表するすぐれた業績をあげたスタッフを顕彰する福澤賞を授与された。先生の人生は、まさに研究一筋と言うに等しく、後学の者にとっては研究者のあるべき姿を示す鑑ともいえよう。

また、先生は実に多くの弟子を育てられた。先生の人柄もあずかって、先生を慕って、塾の内外を問わず、多くの学究の徒がその門を叩いた。利光門下からは、古代史は言うにおよばず、近代史、中世史など、誠に多彩な研究者が輩出している。改めて、先生の懐の奥深さを知る思いである。しかし、仄聞するところでは、先生はお弟子さんに余り子細にわたる小言は言われず、冗談にまぎらせて大切なことをさりげなくお話になられるようである。一見なにげないお話しが、後になって思いあたり、改めて御忠告の意味をさとしたという者も多い。

先生の御趣味は骨董の蒐集である。なかでも古銭の蒐集家としてはつとに知られており、『古貨幣夜話』なる著作も公にされている。同書を手にとった者には、それが単なる蒐集欲を満足させるものではなく、一つの史料であり、形を変えた歴史研究となっていることに気付くであろう。あるいは、先生は、ただの骨董趣味で始められたのかもしれないが、これはすでに趣味の域を出ている。

その先生が、今度は新設の富士短期大学の学長の職に就かれた。往々にして、研究一筋の学者は大学行政が不得手である。先生も行政は苦手と公言してはばかられない。しかし、学長職に就任されてわずか半年、その間に示された先生の手腕には並々ならぬものがある。大学の学長室からは、一望の下に駿河湾を見渡すことができる。学長室を一

歩出ると、ラウンジの巨大な一枚ガラスを通して秀麗な富士の姿を仰ぎ見ることが出来る。先生はこの新しい環境が結構気に入っておられる様子である。そのためか、先生の学問への情熱はますます旺盛で、門下生を叱咤激励して止まるところを知らない。

先生の一層の御健康と御活躍を祈念するものである。

平成二年九月

法学部長
堀江 湛